

「解答例」・「出題の意図」

選抜区分	2025年度（選抜区分：一般後期） 経済学部（科目名：小論文）
出題の意図 （評価のポイント）	今年度の一般後期日程の小論文では、太田肇『何もしないほうが得な日本——社会に広がる「消極的利己主義」の構造』（2022年、PHP新書）から一部を抜粋して課題文としました。この課題文は、組織（会社）内部の「消極的利己主義」が、個人の仕事に対する挑戦的・意欲的な選択を非合理的なものとしてしまう事実について論じた箇所です。 課題文では多くの専門用語が出てきますが、丁寧に読み込めば専門的な知識がなくとも著者の主張を理解することができます。また「消極的利己主義」にもとづき選択することは、会社に限らず学校という集団の中でも一般的に見られる事象であるため、身近な事例に引き付け考えやすい内容でもあります。 設問1および設問2は、課題文の内容を十分に理解した上で、制限された字数内で簡潔に要約する力を試す設問です。課題文の中で展開されている論理を理解することが求められます。設問3は、課題文の内容を踏まえたうえで、自身の考えを文章で論理的に表現する力を試す設問です。 設問1 共同体組織であり、閉鎖的で社員の人間関係が濃密な日本企業において、人間関係や感情が「正の報酬」となる理由を、150字以内で説明しなさい。 解答例 日本企業では個人の仕事の分担が明確でなく、課や係、あるいは上司と部下といった集団単位で行う仕事が多い。このため、他人から仕事で助けられたり、必要な情報をもらったり、逆に他人を助け役に立つことで充実感や満足感を得ることが、社会的欲求や承認欲求を満たす結果となり、そのことが「正の報酬」となる。(146字) 解説： 設問文が示す「正の報酬」となる理由について説明しているパラグラフの内容を簡潔にまとめることを求める設問です。150字以内で収めるためには要旨を自分なりにまとめる必要があります。 設問2 職場の同僚との関係の中で、仕事でチャレンジすること、がんばること、その結果として昇進や昇格して管理職となることがその本人にとって、社会的報酬を獲得するうえでマイナスになる場合が多い理由を、本文

の内容にもとづき 300 字以内で説明しなさい。

解答例

まず仕事でチャレンジすること、がんばることは周囲の同僚にとって「迷惑」となるからである。日本の会社は共同体組織であり、一人ひとりの仕事の分担が明確になっておらず、全体が相互依存の関係にある。職場のなかの仲間どうしの暗黙の規範により、ある人ががんばりすぎると、ほかの人が同じようにがんばらなければならなくなる。そのことが周囲の同僚にとって「迷惑」となる。また、チャレンジすること、がんばることの結果として昇進や昇格して管理職となる場合、同僚から嫉妬される場合がある。この嫉妬の感情は「迷惑」と結びつきやすく、実際はそれほど迷惑がかかっているわけではなくても、周囲の同僚にとって「迷惑」となる。(296 字)

解説

設問 2 が示す、社会的報酬を獲得するうえでマイナスになる場合が多い理由について、課題文のうち該当する内容を簡潔に要約する設問です。解答に必要な記述を課題文の中から適切に見つけ出すことが必要となります。

設問 3

あなたが組織や集団の中でチャレンジすること、がんばること、またその結果として他者から評価されることが得にならないと考えた事例をあげ、そのような思考に至った理由について、本文の内容をふまえて 500 字以内で論じなさい。

解答例

私の中学校では、2 年生が秋の文化祭でクラスごとに企画展示をすることが伝統となっていた。私たちのクラスでは、当時のクラス委員長が歴史好きだったので、彼の発案で地元の祭の歴史について調べることとなった。彼は作業計画や分担表をつくり、進捗の悪いグループに助言を与えるなど、率先して企画成功に向けて頑張っていた。企画展示は来場者も多く成功したが、実は私も含め他の同級生達は、ほどほどにやって恥ずかしくない程度でいいと考えていたため、様々な提案をする委員長を疎ましく感じていた。そして、年度も明けて 3 年生になって、彼が高校入試の自己推薦書に文化祭での活動のことを書こうとしていることがうわさになった。その後、彼の活動が学校で評価されて推薦が決まった際には、私自身は軽い妬みを感じたと記憶しているが、その後、彼は学年で浮くような状況になってしまって悩んでいた。以上のように、組織や集団の中で頑張ることが、必ずしも周りから受け入れられるとは限らないし、頑張りの結果、周りが羨むような評価がその人に与えられた場合、それが他人からの

やっかみや妬みの対象となり、本人にとって「負の報酬」となり得るということを知った。(499 字)

解説

課題文で示されたロジックを参考にしながら、チャレンジすること、がんばること、またその結果として他者から評価されることが得にならないと考えた身近な事例をあげ、そのように考えるに至った理由を思考する設問です。「組織・集団の中で」という条件をふまえたうえで、自身の経験をもとに説明する必要があり、そのためには自身の思考プロセスを客観的に理解できなければなりません。唯一の解答はなく、課題文と整合的な範囲で多様な解答が許容されます。設問に対して適切に論じていること、自身の考え方を適切に表現していることが大切です。